

REEL No. 1-0457

0379

四、對支文化事業實施關係

(一) 實施方針

一、資源別ニ依ル振當方針

大正十一年十一月ニ於テ歐洲戰爭ノタメ一時支拂ヲ延期セラレタル義和團事件賠償金ノ支拂再開セララルルニ當リ帝國政府ハ豫テノ聲明ニ基キ對支文化事業ヲ行フタメ第四十六回帝國議會ノ協贊ヲ經テ右賠償金ノ元利全部ヲ以テ對支文化事業特別會計ヲ設置セシカ當時恰モ山東問題解決ニ伴ヒ山東鐵道及公有財産補償ノ支那國庫證券ノ元利ヲ受入ルルコトトナリタルヲ以テコレヲモ本特別會

MT 1.5.2.2 -2 117

計ノ資源ニ加ヘタリ然ルニ所謂對支文化事業ニハ主トシテ支那人ノ爲ニスル文化事業ト支那ニ於ケル日本人ノ文化事業トノ二種アルヲ以テ事業及收入ノ性質ニ鑑ミ國庫賠償金關係ノ收入ハ之ヲ舉ケテ前者即チ支那人ノ爲ニスル文化事業ニ投スルト共ニ後者即チ支那ニ於ケル日本人ノ文化事業ニ對シテハ支那人ノ文化事業ニハ從來何等行懸リモナキ山東關係ノ收入ヲ用フルコト最モ妥當ト認メララルルノミナラス兩資源ヨリノ收入ヲ混同シテ右兩種ノ事業ニ用フルトキハ幾多ノ誤解ト煩累ヲ招クノ虞アルヲ以テ外務省ハ本特別會計ノ資金ヲ運用スルニ當リ前記ノ如キ確然タル區分ヲ設ケンコトヲ希望シ先ツ齋藤出淵局長ト汪公使トノ間ニ文化事業ニ關スル非公式協議ヲナシタル際同公使ニ於テモ右ノ區分ヲ肯諾シ進

MT 1.5.2.2 -2 118

ンテ對支文化事業調査會開カルルヤ松井外務大臣ヨリ同調査會ニ  
諮問シテ其贊同ヲ得タリ（詳細特別會計歳出振當ノ根本方針參照）  
ニ恒久的事業計畫ノ方針

本特別會計設置セラルルヤ内外各種ノ支那關係文化事業ハ爭ツテ  
經費ノ補助ヲ申出テ僅々數ヶ月ニシテ申請總額三千萬圓ノ巨額ニ  
上レルニ鑑ミ若シ一律是等事業ニ對シ經費補助ヲナサンカ歳出限  
度僅カニ貳百五十萬圓タル特別會計ヲ以テシテハ各種事業ニ對ス  
ル現實割當額ハ到底當事者ノ希望ニ副フ能ハサルヘク又政府トシ  
テモ徒ニ資金ヲ分散シ何等徹底の事業ノ劃策經營ヲナシ能ハサル  
ヘキヲ以テ外務省ハ從來ノ行憲リアルモノヲ除キ差當り原則トシ  
テ個々專業ニ對スル經費補助ヲナサス資金ヲ一括シテ相當大規模

MT 1.5.2.2 -2 119

ナル恒久的文化事業ヲ行フコトトシ其ノ具体的方法ニツキ調査研  
究ヲ重ネタル末遂ニ前記歳出振當方針同様ノ手續ヲ經北京ニ圖書  
館及人文科學研究所ヲ又上海ニ自然科學研究所ヲ建設シ以テ東方  
文化ノ保存發揚ヲ圖ルコトヲ決定セリ（詳細ハ事業實施關係圖書  
館及研究所設立參照）

### 三 其他ノ主要實施方針

帝國政府ノ文化事業實施ニ關シ以上ノ外決定セラレタル方針ノ主  
ナルモノ次ノ如シ

(一) 留學生關係 在本邦支那留學生ニ對シ學費補助ヲナスコトハ本  
特別會計設置ノ動機トモ見ルヘキモノナルニ依リ實行ハ頗ル困  
難ナルモノナリト雖モ出來得ル限り其ノ目的ノ貫徹ニ努力シツ

MT 1.5.2.2 -2 120

ツアリ而シテ其ノ補給方法ニツキテハ漫然一律ニノ補助ヲ  
ナス代リニ少數優良學生ヲ選定シコレニ十分ノ學費ヲ補給セン  
考ニテ本特別會計設置以來支那側ト交渉ヲ重ネツツアルモ今日  
マテノトコロ未タ一般方針ヲ確定スルニ至ラス尤モ右優良者補  
助ノ趣旨ニ基キ既ニ專門教育ヲ終了セル優秀ナル支那人ニシテ  
更ニ學術ノ蘊奥ヲ究メントスルモノニ對シ對支文化事務局ニ於  
テ人選ヲ行ヒ十分ノ學費補給ヲ爲シツツアリ(詳細、事務實施  
關係留學生學費補給參照)

(二)南支及滿洲ニ於ケル文化事業 南支及滿洲ニ於テハ從來一般民  
間ノ文化事業ノ外臺灣總督府並關東廳及滿鐵ノ文化的施設アリ  
シカ本特別會計設置後此等ヨリ經費ノ補助ヲ得度キ旨申出テタ

MTC 1.5.2.2 -2 121

レトモ本特別會計ノ歲出ニハ限度アルヲ以テ臺灣總督府並關東  
廳、滿鐵ノ如キ相當豐富ナル資力ヲ有スルモノニ對シテハ差  
リ補助セサルコトトシ寧ロ他方面ニ於ケル有意義ナル文化事業  
ニ可成繼メテ資金ヲ投シ將來餘裕ヲ生シタル場合ニ於テ初メテ  
其ノ求ニ應スルコトトセリ(詳細ハ特別會計豫算編成方針參照)  
(三)視察及講演關係 文化事業トシテ價值アル既存ノ事業ヲ補助シ  
又ハ有意義ナル新規ノ事業ヲ計畫スルコト緊要ナルト共ニ兩支  
同種ノ關係モアリ日支兩國ノ各方面ノ人士カ互ニ來往シ知識ヲ  
交換シ見聞ヲ廣ムルコト兩國文化進展ノ爲願ル望マシキコトナ  
ルヲ以テ講師並視察者ノ交換ヲ適當ノ時期ニ於テ行フコトトセ  
リ(詳細特別會計豫算編成方針參照)

MT 1.5.2.2 -2 122

(四) 豫算編成方針 最後ニ豫算編成ノ方針ニツキ一言セシニ大正十二年度ニ於テハ本特別會計法案第四十六議會ノ半ニ提出セラレタル關係上緊急已ムヲ得サル經費(事務費、留學生給與費、山東關係學校病院補助費等)並差當リ實行シ得ヘキ事業(交換講演視察費)ニ對スル經費ノミヲ計上シ新規有意義ナル事業ノ經費ハ十分考究ノ上大正十三年度豫算ニ計上スル筈ナリシカ震災ノ爲十三年度本豫算ハ大体ニ於テ大正十二年度豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ編成シ新規事業ノ經費ハ總テ追加豫算ノ形式ヲ以テ提出スルコトニ閣議決定セシニ依リ本特別會計ニ於テモ新規ノ恒久的文化事業ニ要スル經費ハ大正十三年度追加豫算ニ計上スルタメ専ラ其編成ニ努メツツアリタル處第四十八回帝國議會解散

セラレ右追加豫算案ハ提出ノ機會ヲ失ヒ結局半歳後ニ於ケル來ルヘキ第四十九回議會ニ同シク追加豫算トシテ提出セララルコトナレリ  
尙從來一般會計ノ補助ヲ仰キ居リタル東亞同文會及同仁會ニ對スル經費補助ハ第四十六回帝國議會ニ於テ本特別會計法制定ノ際ニ於ケル行懸上大正十三年度以後ハ本特別會計ヨリ之ヲ爲スコトトナリシカ第四十八回帝國議會解散セラレタル結果大正十三年度實行豫算ハ前年度豫算ヲ踏襲編成スルコトトナリタル處十二年度豫算ニ於テ山東關係ノ學校病院補助費及救恤費(十三ニハ助成費ト致<sup>改稱</sup>様)トシテ計上セラレタル金額ヲ按配シ右兩團體ニ對スル補助費ヲモ計上セリ

次ニ昨秋震災ノ結果日華學會、東亞高等豫備學校及留日基督教青年會等ハ緊急經費ノ補助ヲ必要トシタル爲當初該補助費ハ大正十二年度追加豫算ニ計上ノ豫定ナリシカ前記ノ如ク議會解散セラレ計上ノ機會ヲ失ヒ他ニ支出ノ方法ナキニ至レルヲ以テ大藏大臣ノ承認ヲ得テ救恤費ノ目ヨリ之ヲ流用支出セリ尙山東關係ノ學校病院モ十二年度内ニ緊要經費ヲ追給スヘキ事情アリシカ右ノ如キ專斷ニテ他ニ方法ナキヲ以テ之亦右同様ノ方法ヲ以テ經費ヲ流用支出セリ（詳細ハ特別會計豫算編成方針參照）

REEL No. 1-0457

0385

圖 對支文化事業實施關係

(一) 留學生學費補助

一、對支文化事業特別會計設置ト在本邦支那留學生學費給  
支那留學生ノ本邦ニ來ル者年ト共ニ増加シ一時万ヲ以テ算スルニ  
至リ明治四十年前後ヨリ大學及專門學校ニ入學セントスル者漸次  
増加ノ傾向ヲ呈シタリト雖モ日支ノ關係動モスレハ圓滿ヲ缺キ日  
本ニ於ケル生活程度比較的高價ニシテ且ツ故國內政ノ關係上學費  
ノ送附往々停滯スル等種々ナル關係ニ依リ來リ留學スル者減少ス  
ルノ傾向アリシヲ以テ政府ニ於テハ支那公使館ト共ニ之カ對策ニ

MT 1.5.2.2 -2 126

就キ種々考究シ又民間ニアリテモ之カ救済ニ努力スルトコロアリ  
シカ偶々支那カ世界戰爭參加ノ對償トシテ我國始メ當時ノ聯合國  
側タル償債國ヨリ五年間支拂ノ延期ヲ容認セラレタル團匪賠償金  
カ大正十一年十二月ヨリ再ヒ償債國ニ對シ支拂ハルルコトトナリ  
シニ依リ我國トシテハ此ノ賠償金ヲ以テ支那留學生ノ獎勵及救済  
ヲ爲サントスルノ議朝野ニ起ルニ至レリ

抑團匪賠償金ノ處分ニツキテハ嘗テ大正七年後藤外務大臣ヨリ在  
本邦支那公使章宗祥ニ對シ追テ適當ノ時機ニ於テ該賠償金ノ請求  
權ヲ拋棄スルノ内意ヲ有シ居リ其ノ辦法ニ對シテハ更ニ考慮スル  
旨ヲ非公式ニ聲明スルトコロアリタルノミナラス其後第四十五議  
會ニ於テ荒川五郎外十一名(憲政會關係)ヨリ義和團事件賠償金

MT 1.5.2.2 -2 127



ノ一部ハ之ヲ民間ニ遷附シテ日本留學生ノ學費ニ充テシメ一部ハ民間ニ於ケル我カ學校病院其ノ他ノ文化事業ニ補助使用セシムヘキ旨並山本條太郎外六名（政友會關係）ヨリ政府ハ支那留學生ヲ招徠教育シ又支那ニ於ケル我國ノ教育及文化的施設ヲ獎勵スル爲適當ノ方法ヲ講セラレ度キ旨ヲ夫々衆議院ニ建議シ何レモ大正十一年三月二十五日可決セラレ支那ニ於ケル文化事業ニ關スル我國朝野ノ意見ハ略ホ一致ヲ見ルニ至レリ  
茲ニ於テ政府ハ團匪賠償金ノ償還再開ヲ擬トシ從前ノ聲明通り之ヲ主トシテ支那人ノ利益ノ爲ニスル文化事業ニ使用セントスルノ方針ニヨリ大正十二年三月三十日對支文化事業特別會計法ヲ制定セリ

MT 1.5.2.2 -2 128

右法律案ハ第四十六回議會半ニシテ提出セラレタル關係上追加豫算ニハ差向キ緊要ナル經費ノミヲ計上スルコトトシタルカ留學生學費給與問題ハ以上ノ如ク對支文化事業トシテ本特別會計設置ノ因ヲナシタルモノナルニ依リ右追加豫算中ニ四十一萬八千圓ヲ計上シ留學生ニ對スル學費及旅費ノ給與ヲナスト共ニ死傷病留學生ニ對スル手當並留學生ノ諸團體及諸會合ニ對シ補給スルコトトセリ  
三、留學生學費支給ニ關スル公使局長間非正式協議會迄ノ經過  
支那留學生學費補給ノ問題ニ關シ帝國政府ハ特別會計設置後間々ナク大正十二年六月五日內田外務大臣ヨリ在本邦張支那代理公使ニ宛テ大要左ノ如キ内容ヲ有スル協定案（全文ハ附屬書類第

MT 1.5.2.2 -2 129

號參照)ヲ送付セリ

大正十二年四月一日ヨリ大正十三年三月三十一日ニ終ル一ケ年  
間ニ毎月二萬五千圓宛合計參拾萬圓ヲ支出シ在本邦支那留學生  
ニ學資及歸國旅費ヲ支給スルコトトシ其學生ノ選定ハ支那側ニ  
於テ品性健康學力等ヲ考慮シ帝國外務省ト豫メ協議ヲナシタル  
後決定スルコト

之ヨリ先キ在本邦支那留學生ハ本國政情ノ影響ヲ受ケ學資ノ送金  
兎角不足且停滯勝ナリシタメ幾多ノ困難ヲ感シ再三本國政府並公  
使館ニ迫リ其解決ヲ求メ其結果缺費生ニ對シ一時崇文門稅收入ヨ  
リ學資補給ヲ爲スコトトナリ該收入ニ基ク送金アリシカ之亦往々  
ニシテ送金停滯シ學生ハ窮餘益激烈ニ公使館ニ迫リ同館トシテモ

M 1.5.2.2 -2 130

策ノ施ス所ヲ知ラス一時或ハ正金銀行ヨリ借入レテナシ缺費生ニ  
支給セシコトモアリシカ到底根本的ニ問題ノ解決ヲ爲ス能ハス學  
生ハ更ニ資金ノ調達ヲ公使館ニ強要シタメニ館員ハ一時地方ニ避  
難セサルヲ得サルニ至リ彼等ハ一方學生ノ行動取締方ヲ我ニ請求  
スルト共ニ再三學資ノ補給ニツキ懇慮方ヲ申込ミ來リシモ留學生  
中ニハ官費生アリ自費生アリ又官費生中ニハ缺費生アリ然ラサル  
モノアリ各自其事情ヲ異ニスルノミナラス當初ハ我文化事業トシ  
テノ學資補給計畫ノ真意ヲ了解セサリシタメ徒ニ議論争鬪ヲナシ  
公使館ハ此間ニ處シテ到底一般學生ヲ了解セシムヘキ解決方法ヲ  
見出ス能ハサリシタメ我方ニ對シテモ何等ノ回答ヲナス能ハス往  
暮數ケ月ヲ經過シ本件ヲ支那公使館ノミニ一任スルトキハ折角ノ

MT 1.5.2.2 -2 131

豫算上ノ補給費モ到底其ノ實效ヲ學ケルニ由リキ形勢ナリツカ  
々關東ノ震災起リ留學生ノ多數亦其ノ厄ニ遇ヒ學業ヲ棄テテ一時  
歸國ヲ企ツル者モ少カラサリシテ以テ緊急ノ處置トシテ外務省内  
ニ日本側ヨリハ外務、内務、陸軍ノ三省及日華學會ノ代表者並支  
那側ヨリハ代理公使及公使館員列席シテ支那人救護協議會ヲ以テ  
支那商人及労働者ト共ニ震災學生ノ救護送還ノ方針ヲ決定シ直ニ  
之カ實行ニ着手セリ  
當時之ニ要シタル費用ハ學生及其ノ從者四百二十九名ニ對スル歸  
國旅費貳萬壹千五拾圓及其輸送運賃壹萬四千七百七拾六圓日華學會  
ヲシテ取扱ハシメタル救護事務ノ經費九百五拾貳圓拾四錢合計參  
萬六千七百七拾八圓拾四錢ナリトス

MT 1.5.2.2 -2 132

而シテ他ノ殘留者ハ又震災前ニ比シ何レモ學業上並生活上一ニ著シ  
キ苦痛ヲ感セシヲ以テ適當ナル方法ニ依リ學生ヲ選定シ一人月額  
六十圓平均ノ學費ヲ本年度豫算ノ範圍内ニテ出來得ル限り速ニ支  
給ヲ爲スヲ妥當ト認メタルニ付支那側トノ從來ノ交渉ヲ打切ラン  
ト考ヘ居リタルモ遂ニ交渉進捗ヲ見ルニ至ラスシテ大正十二年ノ  
暮ニ近ツケリ然ルニ偶々本邦駐在ノ支那公使汪榮寶氏ノ赴任アリ  
タルヲ以テ出淵局長ハ大正十二年十二月末ヨリ大正十三年初頭ニ  
亙リ本事業ニ關シ數回同公使ト非公式ニ協議シ他ノ問題ト共ニ本  
問題ニ付意見ノ交換ヲナシ即チ第一回ノ席上支那側ヨリ先ツ大  
正十三年度留學生補給費トシテ六拾萬圓ノ支出アリ度キ旨ノ希望  
ヲ述ヘシカ右ハ多額ニ失スルヲミナラス先ツ一般方針ノ確定ヲ計

MC 1.5.2.2 -2 133

ルコト順序トシテ穩當ナル旨ヲ説キ先ツ大正十三年度ノ大体方針  
ニツキ話合ヲ爲シ大体一人平均月額ヲ八十圓ト看倣シ毎年度總計  
三百二十名ヲ越ヘサル學生ニ補給シ且右學生ノ數ハ原則トシテ各  
省ノ選出國會議員數及其ノ團匪事件賠償金ノ分擔額ヲ標準トシテ  
各省ニ振當テ在本邦支那公使館ト文部省及文化事務局ト協議ノ上  
指定スル大學及專門學校在學學生中ヨリ之ヲ選抜シ(官費生ノ  
ナラス自費生ヲモ含ム)又選抜後モ學業及品行不良ト認ムルモノ  
ニ對シテハ隨時學費ノ補給ヲ停止スヘキコトトナシ尙ホ大正十二  
年度ニ關シテハ此ノ方針ニ準據シテ大正十三年一月ヨリ補給ヲナ  
シ且從來ノ滯納授業料ハ本年度經費ニテ整理シ又補給學費ハ差當  
リ在本邦支那公使館ニ於テ交付スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリシ

M<sup>c</sup> 1.5.2.2 -2 134

カ其ノ後學校及學生ノ選抜等ニツキ留學生間ニ議論出テ支那側ノ  
意見ヲ纏ムルヲ得サリシニ依リ遂ニ右非公式協議會ノ結果ヲ文書  
ニ認ムルニ際シ留學生問題ハ一應之ヲ削除スルコトトシタリ

三 大正十二年度留學生補給費處分

留學生學費給與ノ一般方針ニツキテハ其後機會アル毎ニ引續キ支  
那公使館ト協議ヲ重ネシモ唯補給ヲ受クヘキ留學生ノ範圍ヲ大學  
及專門學校ノ本科生ノミナラス専科生ニモ及ホスコト並毎月ノ補  
給額ヲ一人七十圓トシ残り十圓ハ留學生關係ノ諸費用ニ充ツルコ  
ト等ニ就キ一應意見ノ一致ヲ見タル外殆ント何等ノ解決ヲ見ル能  
ハス一方年度末モ切迫シ來リ此儘トナストキハ折角豫算ニ計上セ  
ラルル本補給費モ殆ント現實ノ支出ヲナスコトナク徒ニ積立金ニ

M<sup>c</sup> 1.5.2.2 -2 135

繰入レラルヘク如斯ハ費目設置ノ趣旨ニモ反スルヲ以テ大正十二年  
年度限ノ一時的辦法ニ依リ之ヲ有效ニ使用セントシ支那公使館ト  
協議ノ結果先ツ差當リ實行可能ノ分ヨリ順次補給スルノ方針ノ下  
ニ(一)中央及各省官費生五百七十一名ノ大正十二年九月分ノ學費壹  
萬八千九百貳圓(一人當最高五十七圓最低拾圓)(二)文部省直轄學  
校在學生授業料等滯納額總額五萬六千七百參拾五圓八拾九錢(三)缺  
費生學費參萬九百參拾八圓(最高百六拾八圓最低拾圓合計五百五  
人)(四)缺費生及自費生卒業者歸國旅費四萬六百五拾五圓(最高參  
百七拾五圓最低百五圓合計貳百伍拾貳人)(五)大正十三年春卒業歸  
國ノ缺費生ニ對スル十二年十二月並十三年一月及二月分學費壹萬  
七千四百九拾八圓(最高百八拾六圓最低百拾八圓合計百四人)及

MT 1.5.2.2-2 136

(六)官自費生三百名ニ對スル獎勵金六萬圓(一人當貳百圓)合計拾  
四萬九千九拾壹圓ヲ支出シ支那公使館及文部省ノ手ヲ經テ夫々關  
係者ニ交付セリ  
以上ノ如クニシテ大正十二年度留學生補給額ノ支出總額ハ前項震  
災當時ノ留學生送還費ヲ加ヘ合計貳拾六萬九百七圓參錢ニシテ豫  
算金額中拾五萬七千九拾貳圓九拾七錢ハ邊ニ支出ヲ爲スヲ得サリ  
キ尙右支出金額中罹災學生歸國手當及運賃並雜費參萬六千七百七拾  
八圓拾四錢ヲ留學生補給費中ヨリ支出セラルルハ不都合ナリトノ  
議論留學生中ニ起リタルヲ以テ同年度末ニ至リ支那側ヨリ之ヲ留  
學生補給費ヨリ支出セサル様希望スル旨申出タルモ他ニ支出ノ途  
ナキヲ以テ結局右金額丈ハ支那政府ヨリ之ヲ返還スルコトトナリ

MT 1.5.2.2-2 137

タルモ今日迄未タ之レカ實行ヲ見ス其儘トナリ居レリ  
四 大正十三年度ニ於ケル經過

以上ノ如ク大正十二年度ニ於テハ外務省ハ勿論支那公使館モ専心  
努力セシカ遂ニ何等根本的方針ノ確立ヲ見スシテ終レリト雖モ同  
年度末ニ於ケル臨機ノ措置ハ留學生等ニ多大ノ好感ヲ與ヘ問題解  
決ノ前途ニ光明ヲ認ムルニ至レルニ依リ日支當局ハ銳意其ヲ  
續ケ遂ニ支那公使館ハ教育部ノ訓令ヲ仰キ同部案トシテ學生ノ定  
數、各省分配標準及比數、給與金額、官費生自費生間ノ分配率、  
補缺者ノ填補方法、學校ノ順位及種類並各省振當數以外ノ處分等  
各種事項ニ就キ提議シ四月十六日外務省當局ハ支那側ト下打合會  
ヲ開キ腹藏ナキ意見ノ交換ヲナシ一致ヲ見タル點渺カテサリシモ

MT 1.5.2.2 -2 138

學校ノ種類及順位ノ問題ニ關シテハ決スルトコロナク結局公使館  
側ハ原案タル教育部令ノ修正意見トシテ三案ヲ提示セシカ我方ニ  
於テハ前記教育部案ヲ始メ公使館諸案ヲ文部省ニ移牒シ其ノ考慮  
ヲ求メタルカ六月十一日同省ニ於テ文部次官ヲ始メ三學務局長及  
文部外務兩省關係官ノ相談會ヲ開キ公使館ノ第三案（甲官立大學  
乙私立大學丙官立專門學校大學豫科丁私立專門學校及大學豫科戊  
特別豫科）ヲ採リ只特別豫科ト普通豫科トハ同一視スルコト並私  
立大學ニ於ケル多數ノ好マシカラサル學生ヲ排除シ且實科方面ノ  
學生ヲ養成スル見地ヨリシテ學科別ニ夫々定員ヲ設ケ然ル上ニテ  
學校別及各省定員ニ依リ夫々配布スルコト等話合ヲナシ且文部省  
ニ於テ參考トナルヘキ材料ヲ作成スルコトトナレリ

MT 1.5.2.2 -2 139

五在本邦支那公使館學務處經費問題

留學生學費補助問題ニ關聯シ在本邦支那公使館學務處ノ經費補助  
問題起レリ

在本邦支那公使館學務處ハ既ニ相當ノ沿革ヲ有スルモノナルカ近  
年本國政府財政ノ窮迫ニ伴ヒ其經費不足勝ニシテ爲ニ勸モスレハ  
監督ノ實ヲ擧ケ得サルノ情況ナリシヲ以テ最近公使館ヨリ之カ專  
務費トシテ貳萬圓ノ補助方外務省へ申出アリシカ右ハ學費補助ノ  
實績ヲ擧ケシムル爲ニモ必要ナリト認メ其ノ支出科目並支出ノ方  
法等ニ關シ種々考究ノ結果學務委員張元節及陳延齡兩氏ヲ對支文  
化事務局ノ臨時囑託トシ事務費ノ項雜給及雜費ノ目ヨリ各參千圓  
合計六千圓ヲ一時限リノ手當トシテ支給スル形式ニテ實際ハ學務

MT 1.5.2.2 -2 140

處ノ經費ニ充テシメンセシカ汪公使ハ右兩氏囑託案ハ面白カラス  
トシ更ニ北京政府ニ稟請シ方法ヲ考究スルコトトシ本件ノ實施ハ  
暫ク見合セラレ度キ旨申出テタリ其後汪公使ハ四月二十八日外務  
省來訪ノ上學務員ヲ公使監督ノ下ニ置クコトハ公使館ノ事務ニモ  
累テ及ホスニ付學務專使ヲ置キテ學生ニ關スル事務ヲ掌ラシメ只  
外務省ト交渉ヲ要スル場合ニ公使之ニ當ルコト適當ト考ヘ右ノ意  
見ヲ本國政府ニ稟中シタル次第ナルカ未タ之カ解決ヲ見ルニ至ラ  
サルニ付自分ハ北京ニ歸リ之カ實現ヲ期セント述ヘ次テ同公使ハ  
歸國シ支那政府當局ニ力説ノ結果六月七日附大總統令ヲ以テ勸齋  
樞駐日留學事務總務ニ任セラレ同氏ハ經費ノ出所確定ヲ俟ツテ就  
職スル由ナルカ果シテ就任スヘキヤ不明ナリ

MT 1.5.2.2 -2 141

處ノ經費ニ充テシメンセシカ汪公使ハ右兩氏囑託案ハ面白カラス  
トシ更ニ北京政府ニ稟請シ方法ヲ考究スルコトトシ本件ノ實施ハ  
暫ク見合セラレ度キ旨申出テタリ其後汪公使ハ四月二十八日外務  
省來訪ノ上學務員ヲ公使監督ノ下ニ置クコトハ公使館ノ事務ニモ  
累テ及ホスニ付學務專使ヲ置キテ學生ニ關スル事務ヲ掌ラシメ只  
外務省ト交渉ヲ要スル場合ニ公使之ニ當ルコト適當ト考ヘ右ノ意  
見ヲ本國政府ニ稟申シタル次第ナルカ未ク之カ解決ヲ見ルニ至ラ  
サルニ付自分ハ北京ニ歸リ之カ實現ヲ期セント述ヘ次テ同公使ハ  
歸國シ支那政府當局ニ力説ノ結果六月七日附大總統令ヲ以テ勳章  
樞臣日留學事務總務ニ任セラレ同氏ハ經費ノ出所確定ヲ俟ツテ就  
職スル由ナルカ果シテ就任スヘキヤ不明ナリ

MT 1.5.2.2 -2 142

#### 六 特選留學生及實習費補助

以上ハ一般留學生問題ノ經過ナルカ之ト離レ別ニ本邦ニ於テ専門  
教育ヲ終ヘ歸國後相當年月ヲ閱シタルモノニシテ更ニ學術ノ蘊奧  
ヲ究ハメンカ爲本邦ニ來遊シ研究ヲ重ネンコトヲ希望スル者アリ  
其中ニハ在學當時ノ關係上我カ學校當局ニ於テモ之カ指導ヲ希望  
スル向キモアルカ故ニカカル研究者ニ對シ學費ヲ補助スルハ文化  
事業ノ目的ニモ副フ次第ナルヲ以テ三月十日支那公使館ニ對シ外  
務省ヨリ非公式ニ提議スルトコロアリシカ支那側ニアリテハ先般  
來當方トノ間ニ協議中ノ年額貳拾六萬八千八百圓(一人月額七十  
圓三百二十人分)ノ内十一名ニ對シテハ一般留學生同様月額七十  
圓ヲ支給シ支那側ニ於テ推薦スルコトト致度キ旨ノ希望アリシ

MT 1.5.2.2 -2 143



以テ當局ニ於テハ此ノ希望ハ之ヲ容ルルコトトシ別ニ右三百二十名以外ニ我方ノミニテ選定スル特選留學生ノ制度ヲ設クルコトトシタリ即チ學費補給豫算額年額參拾萬圓ノ殘額參萬千貳百圓中ヨリ十名以内ノ特選留學生ヲ選定シテ毎月百五拾圓以内ヲ支給シ特ニ必要アリト認ムルトキハ外ニ年額五百圓以内ノ研究費ヲ補給スルコトトシ一應汪支那公使ニ諮リ汪公使ニ於テモ右特選留學生ニ對スル學費補給ノ件ハ目下考究中ナル三百二十人ノ普通留學生ニ對スル補給ノ問題ト切離シテ之ヲ取扱フコトトナスニ於テハ異存ナキ旨電話ニテ回答アリシヲ以テ前述セル選定及給與標準ノ外該希望者ハ履歷番及研究事項ヲ具シ學部長若クハ學長或ハ校長ノ推薦ヲ經テ願出ツルコト學費補給期間ハ二年タルコト該留學生ハ報

MT 1.5.2.2 -2 144

酬ヲ得テ他ノ業務ニ從事スルヲ得サルコト毎一年ノ終リ於テ報告書ヲ推薦者ヲ經テ提出セシムルコト成績不良ニシテ其ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ免シ得ルコト等ノ内規ヲ定メテ實施シ現ニ東京帝國大學大學院ニ於テ病理學一般ヲ專攻スル陳方之（林醫學部長推薦）京都帝國大學醫學部生理學教室ニ於テ筋肉神經及神經細胞ノ生理ヲ專攻スル周頌聲（足立醫學部長推薦）及慶應義塾大學醫學部産婦人科教室ニ於テ妊婦ノ新陳代謝ニ關スル研究ヲナス程立（北里醫學部長推薦）ノ三人ハ特選留學生<sup>生</sup>入レリ

又本年五月周代理公使ヨリ東京帝國大學工學部探鑛冶金科ニ於テハ實習修學旅行ヲ必須科目トナシ居リ其實習費ハ普通學費同様支

MT 1.5.2.2 -2 145

給スルキモ、ナレトモ同公使館ニ於テハ目下之ヲ支給スル餘裕ナ  
キニツキ、該實習費支給ヲ願出タル同科在學支那留學生史允中外四  
名ニ對シ、大正十三年度留學生補給費中ヨリ金貳千百圓ノ支給ヲ得  
度旨申出アリシニ依リ、文部省側トモ協議ノ上、支那側希望通該實習  
費ノ補給ヲ爲スコトトシタリ

MT 1.5.2.2 -2 146

REEL No. 1-0457

0396

REEL No. 1-0457

0397

四、對支文化事業實施關係

(三) 圖書館及研究所設立

一、圖書館及研究所設立方針ノ決定

帝國政府ニ於テハ昨春對支文化事業特別會計ヲ設ケ事務局ヲ置キ  
テ該事業ニ着手シ本邦ニ於ケル支那留學生ノ學資補給並支那ニ於  
テ邦人ノ經營スル文化事業ノ補助等ヲ計畫スルト共ニ新ニ相當大  
規模ナル恒久的文化事業ヲ實施セントシ日支兩國各方面ノ意嚮並  
諸外國ノ經營ニ係ル支那ニ於ケル事業等ヲ調査シツツアリタル處  
奮勵ニ至リ文化事業ニ特別ノ理解ヲ有スル在本邦支那公使汪榮寶

MT 1.5.2.2 -2 147

氏着任セルニ依リ出淵對支文化事務局長ハ此機ニ於テ非公式ニ同  
公使ト數回ノ會見ヲ重ネ對支文化事業實施ノ方針ニツキ懇談ヲテ  
シタル結果前記ノ趣旨ニ於テ先ツ北京ニ圖書館及人文科學研究所  
ヲ又上海ニ自然科學研究所ヲ設立シ以テ東方文化ノ保存發揚ヲ計  
ルコト適當ナルコト並右北京圖書館及人文科學研究所ノ敷地ハ支  
那政府無償ニテ之ヲ提供スルコトニ意見ノ合致ヲ見タリ

依テ本年一月對支文化事業調查會第一回會合ニ於テ松井外務大臣  
ハ團匪賠償金關係ノ收入ヨリ其經費ヲ支出スル帝國政府ノ文化事  
業ノ一トシテ右圖書館及研究所ヲ設置スルタメ大正十三年度追加  
豫算ニ約八十萬圓ヲ計上スルコトニツキ調査會ニ諮問セシ處調査  
會ハ特別委員會ヲ設ケ熱心ニ審議ノ上二月十四日ノ本會議ニ於テ

MT 1.5.2.2 -2 148

之ニ贊同ノ意ヲ表スルト共ニ其實行方法具體的設計等ニ關シテハ  
専門家ノ意見等ヲモ徵シ慎重ニ調査立案センコトヲ希望スル旨附  
帶決議セリ（詳細、調査會關係ノ部參照）

三、圖書館及研究所設立計畫ノ進捗

右ノ如クニシテ帝國政府ノ對支文化事業ノ一トシテ圖書館及研究  
所ヲ設立スルコトニ大體方針ノ決定ヲ見タルニ依リ爾來外務省ハ  
前記調査會ノ希望ヲモ考慮シ隨時各方面ノ専門家ヲ招致シ此等施  
設經營ノ方法建築ノ設計並研究ノ項目等ニツキ其意見ヲ徵シ成案  
ヲ得タルニ依リ（詳細調査會關係ノ部參照）不日開催ノ調査會第  
三回本會議ニ之ヲ附議シ幸ヒ其贊同ヲ得ルニ於テハ直ニ來ルヘキ  
特別議會（第四十九回帝國議會）ニ其新築費ヲ大正十三年度以降

MT 1.5.2.2 -2 149

六ヶ年間ノ繼續事業トシテ五百參拾五萬圓支出ノ承諾ヲ奉メ本年  
度分ハ追加豫算トシテ九拾五萬圓ヲ計上シ其協賛ヲ得タル後第三  
次所載ノ如キ經營團體ノ組織及人選ニ關シ支那側ト交渉スル豫定  
ナリ

尙本件圖書館及研究所設立準備調査ノタメ事務局ハ最近服部、小  
村兩調査會委員並朝岡事務官ヲ支那ニ派遣シ其報告ニ基キ經營團  
體ノ組織ニツキ前記専門家協議會決定ノ趣旨ニ多少ノ變更ヲ加フ  
ルノ必要ヲ認ムルニ至レリ

三、圖書館及研究所經營團體ノ組織

大正十三年三月十七日經營團體組織ニ關スル専門家協議會ニ於テ  
大要次ノ如ク決定セリ

MT 1.5.2.2 -2 150

東方文化ノ保存研究及發揚ヲ計ルタメ北京ニ圖書館及人文科學  
研究所ヲ經營スル團體ヲ又上海ニ自然科學研究所ヲ經營スル團  
體ヲ設立シ其經費ハ政府ヨリノ受入金寄附金其他ノ收入ヲ以テ  
之ニ充テ役員トシテハ日支兩國政府協議ノ上日支兩國人各二名  
ノ理事（内支那人理事一名ハ總理又日本人理事一名ハ常務理事）  
及各一名ノ監事並重要事項ヲ審議スルタメ支那人評議員會長ノ  
下ニ日支兩國人各十名以内ノ評議員ヲ置キ（以上役員ノ任期ハ  
五ケ年）又圖書館及研究所ノ主要職員トシテハ館長及所長ヲ總  
理ノ兼任トナス外之ヲ補佐セシムルタメ兩國政府協議ノ上指名  
スル日本人次長ヲ置クコト（詳細附屬書類第 九 號參照）  
然ルニ其後前記出張者ノ報告ニ鑑ミ或ハ右決議ヲ大體次ノ如ク修

正スルノ必要アルヤモ圖リ難キヲ認ムルニ至レリ  
唯一ノ綜合的團體ヲ組織シ其本部ヲ北京ニ置キ又必要ニ應ジ  
部ヲ各地ニ設クルコトトシ各地ニ於ケル施設ノ管理經營ニ當テ  
シムルト共ニ支那ニ於テ實施スルハキ文化事業ノ發達ヲ爲サレム  
ルコトトシ其役員ニツキテハ評議員會ヲ議決機關ト改メ且常務  
理事ヲ日支兩國人各一名トシ尙各施設ニハ支那人タル長及日本  
人タル次長ヲ置キ平理事ヲシテ之ヲ兼任セシムルコトトナスコ  
ト尙又右役員及主要職員ハ日支兩國政府之ヲ指名スルコトトシ  
唯評議員ノ場合ハ兩國政府別々ニ之ヲ爲シ其他ノ場合ハ評議員  
會ノ推薦ニ基キ兩國政府協議ノ上之ヲ爲スコト

圖書館及研究所ノ研究項目並建築

(一) 北京圖書館及人文科學研究所ノ研究項目並建築及敷地  
 前記専門家協議會ノ話合並伊東内田兩博士ノ略設計ノ結果北京  
 圖書館及人文科學研究所ノ研究項目並建築及設備トシテ豫定セ  
 ラルル處次ノ如シ

(1) 研究項目

哲 學、 支那史、 法制及經濟、 文 學、 美 術、  
 考古學、 宗 教、 天文曆算等

(2) 建築及敷地

本建築ハ鐵筋「コンクリート」建坪約二千坪ヲ支那趣味ヲ  
 加ヘタル古典式建築ノ第一期分ニシテ其坪敷左ノ如シ

一般閱覽室ニ 屬スル部分	三階建 (内一階 ハ地階)	二七六坪	八二八坪	建坪	延坪
研究室及事務 室ニ屬スル部分	三階建	三三六	一〇〇八		
書庫ニ屬スル 分	五階建 (内一階 ハ地階)	八四	四二〇		
計		六九六	二二五六		

次ニ建築物ノ主要區劃ハ研究所ニ於テハ先ツ八部門ニ分レ一部  
 門ニ研究室三個圖書館二個宛ヲ備ヘ又圖書館ニ於テハ一般閱覽  
 室 (七十五坪) 特別閱覽室 (六個) 新聞雜誌閱覽室、 展覽室、  
 目錄閱覽室及目錄編纂室並三十萬卷ノ藏書能力アル書庫 (延坪  
 四百二十坪) ノ外貴重室、 館長室、 理事室、 食堂其他ノ附屬室

等ノ區劃アリ尙ホ設備ニツキテハ後出經費ノ項参照アリタシ  
 次ニ北京圖書館及人文科學研究所ノ敷地ニツキテハ前記ノ如ク  
 汪公使出淵局長非公式協議ノ結果支那政府ヨリ無償提供ヲ爲ス  
 コトトナリ其後汪公使ヨリ公文ヲ以テ「本年四月十三日教育部  
 ヨリ文化事業協定ノ圖書館及研究所北京敷地ニ付、、、現  
 ニ先農壇東南部分面積二百畝ヲ測定シ敷地トシテ充分且ツ館  
 所ヲ同一ヶ處ニ建ツルヲ得ヘク内務部ト協議ノ上其ノ引渡ヲ受  
 クルニ於テハ直チニ決定スル次第ナル旨來電ニ接シタル趣通  
 知シ來リツカ其後事業上内務部側ニ故障アリ本件ハ未タ確定ニ  
 至ラス

(二) 上海自然科學研究所研究項目並建築及敷地

上海自然科學研究所ニツキテモ前項同様ノ手續ヲ經目下大要次  
 ノ通豫定セララル

(1) 研究項目

醫學、理學（地球物理學、化學、地質學、生物學等）

(2) 建築及敷地

本建築ハ鐵筋「コンクリート」建坪約二千坪多少ヲ支那趣  
 味ヲ加ヘタル近代式建築ノ第一期分ニシテ其坪數次ノ如シ

中央部第一號館	二階建（但塔屋 及平屋ボ―付）	一九八坪	建坪	延坪	三九六
中央部第二號館	二階建（但一部 ニ地下室付）	一九三			三八六



理學部研究室 (第一號館)	二階建	一一二二	二四四
同 (第二號館)	同	一一二二	二四四
醫學部研究室 (第一號館)	同	一一二二	二四四
同 (第二號館)	同	一一二二	二四四
廻廊	煉瓦造平家	二〇一	二〇一
計		一〇八〇	一九五九

而シテ本建築ノ區劃ハ大要次ノ如シ

中央第一號館 會議室、圖書館及諸事務室、食堂等  
 同 第二號館 講堂、陳列室、工場其他共通講室

理學部第一號館 物理學及化學研究室  
 同 第二號館 生物學及地質學研究室  
 醫學部第一號館 病理解剖學及細菌學研究室、  
 同 第二號館 漢藥研究室、檢査所、「ワクチン」及  
 痘苗製造室

尙ホ設備ニツキテハ經費ノ項參照アリタシ

次に上海自然科學研究所ノ敷地ハ北京ノ場合ト異リ出淵局長ト  
 汪公使トノ非公式協議ニ於テハ勿論其後モ何等官地無償提供等  
 ノ議ナク又事實同地方ニハ此種目的ノタメ提供シ得ヘキ程リタ  
 ル官地ナキヲ以テ水道電氣瓦斯等ノ設備並地券獲得ノ關係等ニ  
 鑑ミ租界内又ハ租界外ニシテ租界道路ニ沿フ適當ノ地區ヲ買収

スルノ外ナク幸ヒ一二相當ノ候補地アルモ目下尙他ニモ物色中ナリ

(三) 圖書館及研究所建築及設備費ノ豫定

北京及上海ニ設立スヘキ圖書館及研究所ハ前項ノ如ク伊東、内田兩博士ノ設計ニ成リ之ニ要スル新築費ハ大正十三年以降六ケ年間ノ繼續事業トシテ五百參拾五萬圓ヲ對支文化事業特別會計ヨリ支出スルコトトスヘク其内譯次ノ如シ

北京圖書館及人文科學研究所新築費	三、一三九、五五〇圓
建築事務費	二〇〇,〇〇〇
建築費	二、三三一、六〇〇
設備費 (圖書購入費二五七、九五〇圓ヲ含ム)	六〇七、九五〇

上海自然科學研究所新築費

建築事務費	三、二一〇、四五〇
建築費 (敷地購入費四〇〇,〇〇〇圓ヲ含ム)	一、三七三、四五〇
設備費	七四〇,〇〇〇
計	五、三五〇,〇〇〇

尙其年度制總額ハ次ノ如シ

大正十三年度	九五〇,〇〇〇圓
十四年度	九七〇,〇〇〇
十五年度	九七〇,〇〇〇
十六年度	九二〇,〇〇〇
十七年度	八〇〇,〇〇〇

大正十八年度

七四〇、〇〇〇

合計

五、三五〇、〇〇〇

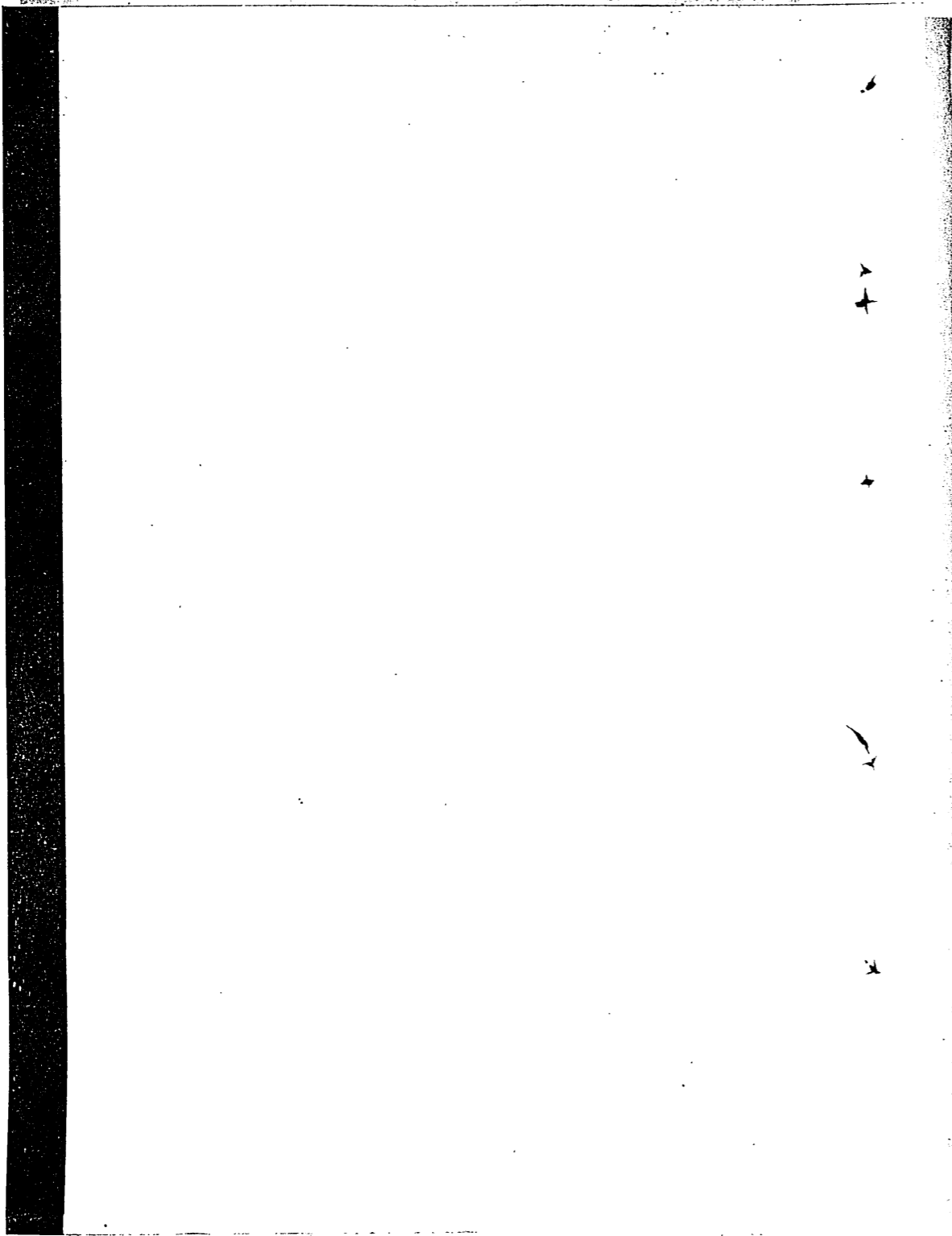
尙又前記六ケ年間ニ於ケル圖書館及研究所經營團體ノ事務費ハ  
五拾萬圓ノ豫定ニシテ又其事業費（研究費）ハ北京ノ分貳拾貳  
萬圓上海ノ分參拾八萬圓ノ豫定ナリ

（詳細ハ特別會計關係大正十三年度追加豫算編成方針ノ部參照）

MT. 1.5.2.2 -2 161

REEL No. 1-0457

0405



REEL No. 1-0457

0406

四、對支文化事業實施關係

(四) 日支兩國視察者

一、總 說

直接政治外交及經濟ノ關係ヲ離レ日支兩國ノ學生並教員等カ相互ニ兩國ヲ視察旅行スルコト當ニ直接彼等ノ見聞ヲ廣メ相互ノ了解ヲ深クスルノミナラス惹イテハ兩國ノ提携親善ニ貢獻スル所勢カラサルヘシトノ見地ヨリ對支文化事業特別會計設置後帝國政府ハ該事業ノ一トシテ之ヲ行フコトトナシ日本側ニツキテハ文部省ニ依頼シテ視察者ヲ選定セシメ又支那側ニツキテハ在支公使ヲ通シ

MT 1.5.2.2 -2 162

支那政府ヲシテ之ヲ選定セシムルコトトシ其選定ノ標準ハ學生ニアリテハ原則トシテ專門學校以上ノ學生トシ之ニ相當ノ指導教員ヲ附シ又教員ニアリテハ各階級ノ學校教員(但大學ヲ省ク)ヲ選拔シ旅費手當トシテ學生及教員ニ對シテハ一人五百圓宛又指導教員ニ對シテハ一人八百圓宛ヲ支給シ旅行期間ハ往復約一ヶ月半トセリ而シテ視察事項及方面等ハ當該視察者ヲシテ自由ニ選擇セシメ又報告書ハ日本側視察者ノミ之ヲ提出セシムルコトトセリ

二、視察狀況及成績

(一) 日本側視察者

一、日本學生ノ視察

大正十二年七月前記ノ方針ニヨリ日本全國諸大學專門學校以

MT 1.5.2.2 -2 163

上ノ學生五十名（外ニ引率教授四名）ヲ選定シ専ラ夏季休暇ヲ利用シ單獨又ハ團體ニテ支那各地ノ視察旅行ヲ爲サシメタルカ最初ノ試ニシテ準備十分ナラサリシ爲多少遺憾ノ點無キヲ得サリシモ關係領事館ノ報告ニ據レハ視察學生ハ卒直眞摯ナル態度ト濺瀾タル元氣トヲ以テ視察ニ當リ何レモ支那ノ實相ニ觸レ想像ト實際トノ相違ヲ明ニシ何レモ日支ノ外交的經濟的關係ノ密接ナルヲ痛感シ其ノ獲ル所不尠他方在留本邦人ハ勿論支那側ニモ相當好感ヲ與ヘタルモノノ如シ

### 三、日本教員團ノ視察

大正十三年三月文部省ニ依頼シテ全國專門學校教授、中等學校及小學校長三十名ヲ選拔シ東京高等學校長湯原元一氏ヲ團

MT 1.5.2.2 -2 164

長トシテ支那視察ヲ行ハシムルニ決定シ一行ハ三月末下關出發朝鮮、滿洲、京奉、膠濟、津浦各鐵道沿線要地ニ於ケル教育狀態其他ヲ頗ル熱心ニ視察シ四月下旬日本ニ歸着シタリ關係領事館並該視察教員ノ報告ニ據レハ支那官民殊ニ教育家ハ眞ノ日支親善ハ直接政治外交ニ關係ナク只管文教ノ上ニ立ツ兩國教育家ノ隔意無キ接觸ニヨリ達成セラルヘシトノ見地ヨリ本件視察團ニ對シ歡迎頗ル努メ且視察上出來得ル限り便宜ヲ提供シタルモノノ如ク我視察團亦大ニ自重シテ終始日本ノ代表的教育家ノ態度ヲ保持シ且與卒熱心ニ視察ニ當リ啓發セラルル所尠カラサルモノアリタル如ク前記學生ノ旅行以上ニ在支邦人及支那官民ニ對シ好感ヲ與ヘタルモノノ如シ

MT 1.5.2.2 -2 165

(二) 支那側視察者

イ。北京學生團ノ日本視察

客年五月在支公使ヲ通シテ支那政府ニ對シ前記條件ヲ以テ視察學生ノ選定方ヲ申入レタルカ其後何等ノ回答ナク年度末モ切迫シ來レルニ依リ督促セシ結果支那政府部内ニ行違アリタルコト判明シ教育部ハ急遽其人選ニ着手シタルカ餘百モナキノミナラス北京ニ於ケル學生ハ各地ヨリ參集セル關係モアルニ依リ差當リ北京ニ於ケル大學專門學校ノ學生中ヨリ選拔スルコトトシ北京大學始メ北京ニ於ケル國立大學（法制大學ヲ除ク）及專門學校ノ學生及指導教員四十三名ヲ日本ニ派遣スルコトトナリ一行ハ三月末來邦シ終始對支文化事務局係官其

MT 1.5.2.2 -2 166

ノ他關係者ノ斡旋ノ下ニ東京、京都、大阪ノ教育産業等ノ他一般文化的施設ノ視察ヲ行ヒ朝鮮經由四月下旬歸國シタリ一行ハ其ノ視察ニヨリ進歩セル日本文化ノ實情ヲ見聞了解シタルノミナラス且日本官民ノ誠意アル款待ニヨリ日本官民全般カ如何ニ支那國民ニ對シ好意ヲ懷抱シ居ルカヲ十分感得シタルモノノ如ク從テ此種支那本國ヨリ來ル視察學生團ハ却ツテ日本ノ美點ヲ正解シ日支國交上不尠好結果ヲ齎スヘシ

ロ。廣東學生團ノ日本視察

廣東方面ノ支那學生ニシテ本邦視察ヲ熱心ニ希望スルモノ多キ由ナルヲ以テ在廣東總領事ヲ通シテ廣東省政府ト協議ノ上茲ニ廣東大學等同省各專門及中等諸學校學生及指導教員十六

MT 1.5.2.2 -2 167

名ヲ選定招致スルコトナリ一行ハ旅費自辨ノ學生十一名ヲ  
加ヘ合計二十七名六月上旬來邦シ目下對支文化事務局其ノ他  
關係者ノ斡旋ノ下ニ教育、産業其ノ他社會狀態視察中ニシテ  
既ニ東京及名古屋ヲ了リ今後京都、大阪、奈良、神戸、廣島  
等ノ視察ヲ爲シテ來月上旬歸國ノ豫定ナリ

ハ。北京法政大學學生團ノ視察

北京法政大學學生六名及指導教員一名ハ前記(イ)ノ學生團ト共  
ニ本年三月來邦ノ筈ナリシモ事情ニヨリ出發延期シタリシカ  
今般愈々來邦ニ決シ滿洲朝鮮經由本月十一日來京畿ニ來邦ノ  
北京學生團ト略同様ノ地方ニ於ケル教育産業及社會狀態等ヲ  
視察シ歸國ノ豫定ナリ

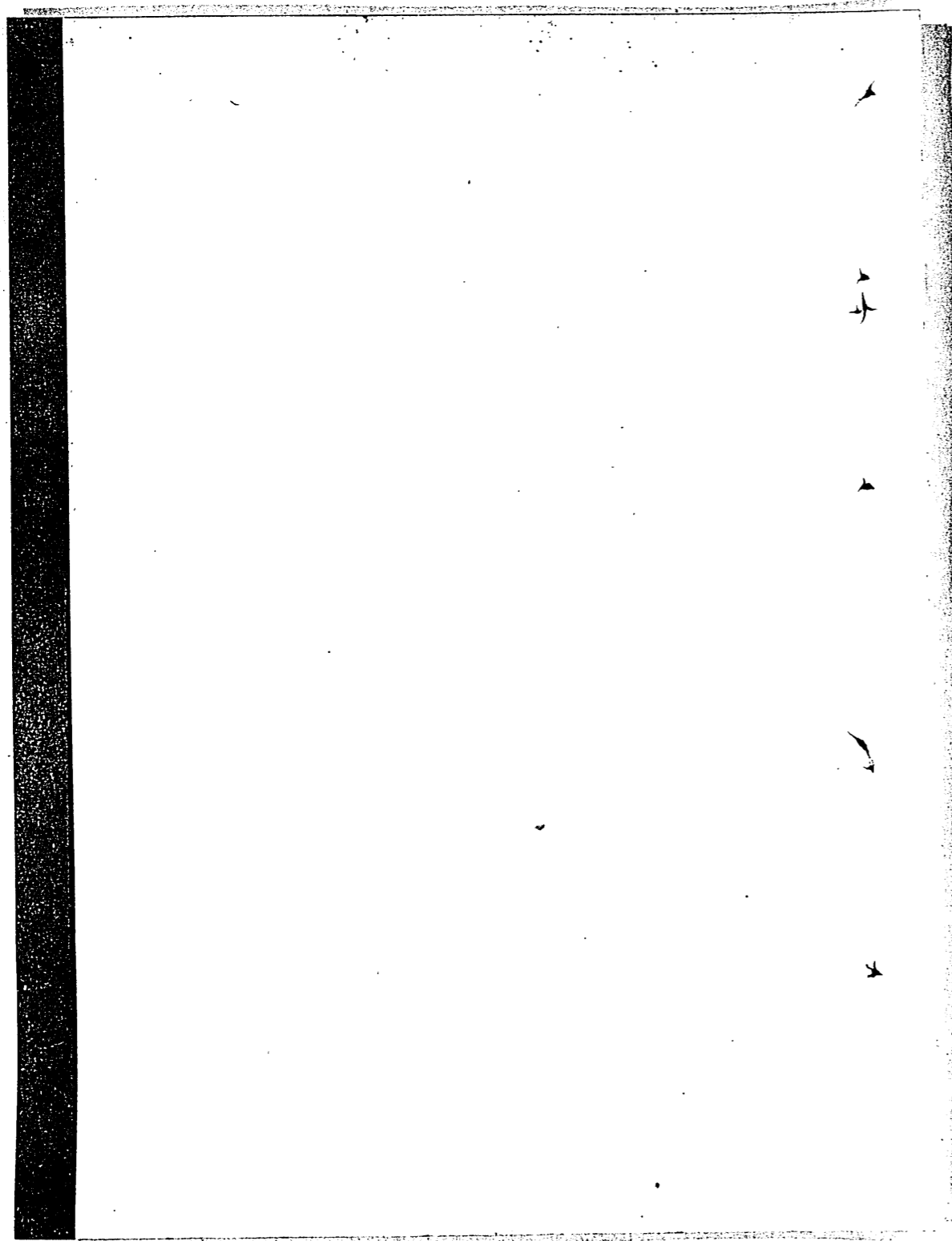
MT 1.5.2.2 -2 168

三。一般支那教育關係視察者ニ對スル便宜供與

對支文化事務局ニ於テハ前記ノ通文化事業ノ一トシテ支那學生等  
ヲ招致シ本邦各地ヲ視察セシムル外在支公館等ノ紹介ヲ經テ渡來  
スル各種支那學生及教員團ニ對シテハ鐵道省、文部省其ノ他關係  
官廳汽船會社等ト交渉協議ノ上視察上出來得ル限りノ便宜ヲ供與  
スルハ勿論之等ニ對シ相當ノ接待ヲ爲シタリ而シテ此種視察者ト  
シテ本年四月以來渡來セルモノハ北京農業大學新卒業生一行六名  
(外ニ指導教員一名)武昌師範大學新卒業生四名山東省第一師範  
學校及同校專修科新卒業生十一名(外ニ指導教員四名)並ニ廣東  
市政廳派遣ノ同廳教育局長ヲ團長トスル社會教育課長市立圖書館  
長及小學校長十名合計十三名ヨリ成ル視察團ナリ

MT 1.5.2.2 -2 169





REEL No. 1-0457

0411

四、對支文化事業實施關係

（四）日支交換講演

一、大正十二年度關係

帝國政府ハ對支文化事業ノ一トシテ日支兩國名士ノ交換講演ヲ行  
フコト願ル有意義ナリト認メ大正十二年度豫算ニ之カ經費トシテ  
參萬九千六百貳拾四圓ヲ計上シ左ノ通兩國詳細ノ交換ヲナセリ

（一）日本側講師

イ、東京帝國大學醫學部長醫學博士入澤達吉

同博士ハ昨夏支那ニ於ケル邦人經營ノ病院觀察ヲ兼テ支那各

地ニ出張シ八月八日北京日本人醫師會主催ノ下ニ同地大和俱  
樂部ニ於テ「脚氣病ニ就テ」ノ講演ヲナシ治療劑トシテ「糖  
エキス」ノ效果著大ナル旨演述スル所アリ聽衆ハ日支人醫師  
其他約三十四五名ニシテ熱心ニ聽講セリ

ロ、東京帝國大學醫學部教授（現部長）醫學博士林春雄

同博士ハ北京協和醫學校ノ招待ニ依リ同學校ニ研究ノタメ出  
張セル額田醫學博士等ノ一行ヲ引率シ十二年十一月渡支シ蘇  
州、上海、杭州、北京、青島等ニ於テ主トシテ藥學ニ關シ前  
后十回ノ講演ヲ爲シ各方面ノ多數聽講者アリ支那醫學界ニ效  
驗スル處大ナリキ（註一、參照）

...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...

MT 1.5.2.2-2 173

...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...
...	...	...	...

MT 1.5.2.2-2 172

REEL No. 1-0457

0413

注

支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那
支那	支那	支那	支那	支那	支那

(一)支那留學博士

醫學博士伍運德

、東京帝國大學文學部教授文學博士原都守之吉  
 同博士ハ北京及上海ニ設立スヘキ圖書館及研究所ニ選スル  
 備調査ノ任務ヲ兼テ支シ約一ヶ月間支那各地ヲ旅行シ上海  
 杭州、蘇州、南京、濟南、北京、天津等ニ於テ支那人ニ對シ  
 爾后十三回日本人ニ對シ二回合計十五回ノ講演ヲナシタリ

支那留學博士伍運德  
 支那留學博士伍運德ハ昨年十月渡日來集ツ鹿兒島市  
 ニ於タル第二十八回九州醫學會ニ出席シ次テ本件交換留學博  
 シテ鹿兒島、京都、大阪、東京等ニ於テ講演ヲナセリ（註ニ  
 參照）

三 大正十三年度關係

本事業ハ對支文化事業ノ一トシテ有意義ナルヲ以テ本年度ニ於テ  
モ其實行豫算ニ五萬貳千八百圓ヲ計上シ先ツ本年七月二日ヨリ二  
十日間支那江西省廬山ニ於テ世界佛教聯合會主催ノ暑期講演會開  
催ヲ機トシ本邦ヨリモ相當人物ノ派遣アリタキ旨同聯合會ヨリ懇  
請アリタルヲ以テ文部省ト協識シ佛教ニ造詣深キ法相宗管長大僧  
正佐伯定胤及東京帝國大學教授文學博士木村泰賢ノ兩氏ヲ此際交  
換講師トシテ往復一ヶ月半ノ豫定ニテ支那各地ニ出張セシメ其途  
次廬山ニ立寄り該講演會ニ出席セシムル豫定ナリ